

青梅市文化財ニュース

第 3 9 9 号

令和 3 年 1 月 1 5 日

発行 青梅市文化財保護指導員連絡協議会

青梅市郷土博物館(青梅市駒木町 1-684 TEL0428-23-6859)

ヒダサンショウウオ

青梅市では、これまで 15 種の両生類の生息が確認されています(青梅自然誌研究グループ、2008)。このうち 12 種はカエルの仲間(無尾類)で、残りの 3 種はサンショウウオやイモリの仲間(有尾類)からなります。

有尾類のうち、アカハライモリとトウキョウサンショウウオの 2 種は丘陵地の湿地や池とその周辺に生息しています。そのため、カエルほどではありませんが比較的身近な両生類といえるでしょう。もう一つの有尾類であるヒダサンショウウオは、これらの 2 種とは違い山地に生息するため、市民でも見たことがある人は少ないのではないのでしょうか。

ヒダサンショウウオは日本の固有種で、関東から中部、北陸、近畿、中国地方、つまり本州の中央部から西よりに分布しています。”飛騨山椒魚”の名前も、本州中部の山地で見つかったことが由来になっています。なお、最新の知見ではヒダサンショウウオは 2 つの種に分けられ、西寄りに分布するものをヒダサンショウウオ、東京都を含む東寄りに分布するものをヒガシヒダサンショウウオと呼んでいます(この稿ではヒダサンショウウオと呼びます)。ヒダサンショウウオは、有名なオオサンショウウオとは違って、全長 10cm から 20cm 程度の小型のサンショウウオです。成熟した個体の体色は紫がかった暗褐色で、金色や黄色の斑点を持っています(写真 1)



写真 1 ヒダサンショウウオ(ヒガシヒダサンショウウオ)の成体
(写真提供：自然観察活動チーム Wild Lives Watchers 井上太志氏)

普段は山地の森林の地表や地中に生息していますが、繁殖期の2月ごろに溪流の上流部の川幅が狭く水量の少ない沢に入って水中に産卵します。青梅市内でもヒダサンショウウオの分布は西寄りの山地に偏っていて、高水三山や御岳山周辺の溪流沿いに限られています（青梅自然誌研究グループ、2008；図1）。

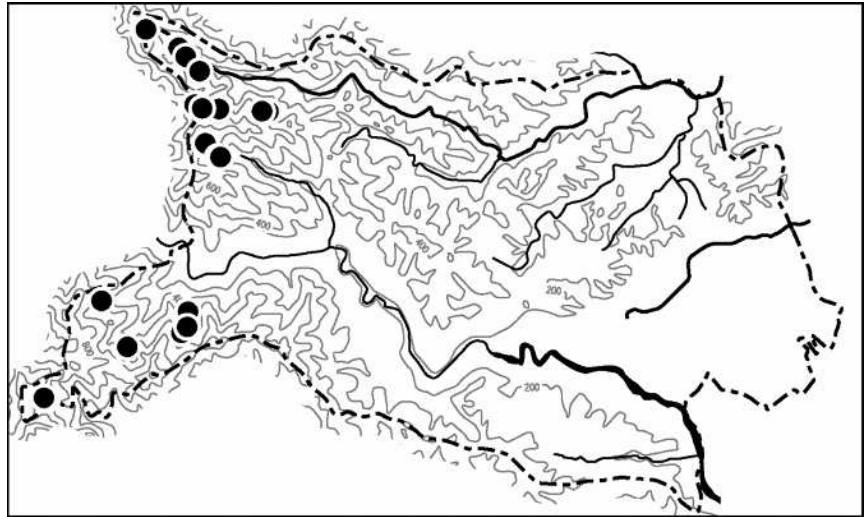


図1 ヒダサンショウウオの分布

平地や丘陵地と異なり山地は大規模な開発もないため、生息地としては比較的安定していると考えられます。それでも過去の生息地点と比べると、ヒダサンショウウオの生息地は少しずつ後退していることがわかっています（青梅自然誌研究グループ、2008；図2）。このため、東京都の絶滅のおそれのある野生生物を掲載した「レッドデータブック東京都2013」（東京都環境局、2013）では、ヒダサンショウウオは「準絶滅危惧」（NT）とされています。

ヒダサンショウウオは山地にひっそりと暮らすため、あまり一般には知られていません。しかし、こうした生物によって青梅市の自然環境は構成され、それによって、人の暮らしは支えられているのです。

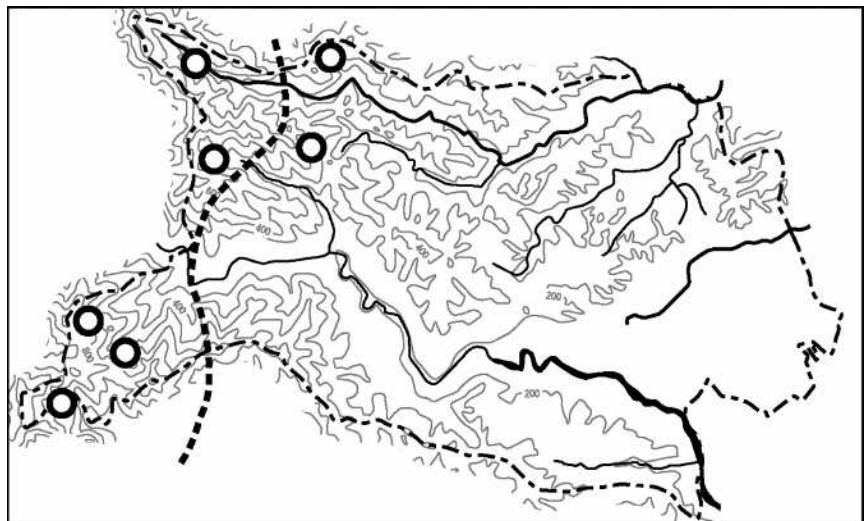


図2 ヒダサンショウウオの過去の記録（○印）と現在の分布前線（・・・線）

<参考文献>

青梅自然誌研究グループ、2008、青梅市の両生類、青梅自然誌研究グループ。
東京都環境局、2013、レッドデータブック東京2013 東京都の保護上重要な野生生物種（本土部）解説版、東京都環境局。

（文責 御手洗望）